



## 目次

|                                     |  |    |
|-------------------------------------|--|----|
| 香川 香                                | 女子大学生の月経前の変調への心理的要因の影響についてー健康生成論的検討ー               | 1  |
| 田中秀男 池見 陽                           | フォーカシング創成期の2つの流れー体験過程尺度とフォーカシング教示法の源流ー             | 9  |
| 石倉 篤 中田行重                           | アーレントの全体主義に対する考えから学ぶーTグループを定義する足掛かりとしてー            | 19 |
| 河崎俊博                                | 中国におけるフォーカシング的態度に関する数量的研究ー中国語版体験過程尊重尺度作成への試みー      | 29 |
| 寺嶋繁典 西藤奈菜子                          | 課題を有する子どもの臨床心理学的支援ー心理アセスメントからセラピーへの実際ー             | 39 |
| 阪本久実子 西森 臨 山岡麻美 米持有紀子 池見 陽          | 「青空フォーカシング」の方法論的特色とその背景について                        | 47 |
| 山岡麻美 米持有紀子 西森 臨 阪本久実子 池見 陽          | 青空フォーカシングの体験記述と状態不安低減効果の検討                         | 57 |
| 清澤千絢 川田麻菜美 構 美穂 向阪俊佑 佐藤 栞 高橋圭佑 中田行重 | 定時制高校に対する地域臨床的支援の試み（その6）                           | 67 |
| 平野智子                                | セラピスト・フォーカシングでは新しいクライアント理解はどのように生じるのかー体験過程理論からの考察ー | 75 |

## 執筆・投稿規定

1. 原稿の内容は未公開のものに限る。執筆者（主著者）は、関西大学臨床心理専門職大学院の教員、大学院生、及び臨床心理学関連専攻を修了した者とする。その他の著者については、編集委員会が本学の活動に寄与すると認める場合、掲載することができる。
  2. 本誌では事例研究論文は原則として受け付けない。事例研究以外の研究においても執筆者は論文の内容および研究方法について、人権の尊重に責任を持ち、可能な限り対象者の了解を得ることとする。論文にケースが含まれる場合は、記載する情報を最小限にして、プライバシーの保護に十分配慮すること。研究・論文作成上の配慮の方法に関しては、関西大学大学院心理学研究科研究・教育倫理綱領に従う。
  3. 原稿は原則としてMS-Wordで作成すること。ページ設定はA4（縦）横書きで、1ページは1200字（40字×30行）とする。日本語の論文は常用漢字・現代仮名遣いを用い、数字は算用数字を用いること。読点は「、」、句点は「。」とする。
  4. 原稿の枚数は12枚以内とする。ただし、編集委員会が認める場合にはこの限りではない。図表はその大きさを本文に換算して枚数に算入すること。
  5. 原稿には表題、著者名、所属とそれぞれの英文表記を記し、要約（600字以内）・キーワード（5項目以内）及び英文 abstract（300ワード以内）・Keywords（5項目以内）を付け、次の順で構成する。表題、英文表題、著者名、所属、著者名と所属の英文表記、要約・キーワード、英文 abstract・英文キーワード、本文、付記、文献。なお、脚注は文末とし、参考文献の前に配置する。
  6. 図表や写真は本文とは別のページに入力するか、あるいは別に添付し、図1、表1など通し番号をつけ、それぞれに題と内容を日本語又は英語で記すこと。図の題はその下部に、表や写真の題はその上部に付ける。また、本文中の挿入箇所を明示すること。
  7. 原稿は指定されたメールアドレスに添付ファイルとして送信すること。添付ファイルはMS-Wordまたはテキスト形式とする。
  8. Th・Clなどの略語は、記述が重複して煩雑になるのを避けるために用いる場合のみ、初出の際にその略語の意味を明示した上で使用すること。
  9. 外国の人名、地名等の固有名詞は原則として原語を用いる。その他の外国語はなるべく訳語を用いること。外国語を用いる場合には、初出の際、日本語読みを（ ）内にカタカナ表記する。
  10. 本文中に文献を引用した場合は、引用した箇所を「 」でくくるか両端のインデント幅を大きくして明示すると同時に、著者名又は論文名と公刊年を記載し、著書からの引用は引用ページを表記すること。訳本の場合には、カタカナで著者名と訳書の発行年を記載すること 例、(ラバポート 2009, p.17)。著者が複数いる場合は、3名までは著者名を挙げ、それ以上は和文献であれば「ら」、洋文献であれば「et al」を用い省略して記載する。
  11. 引用・参考文献は、論文の最後に、著者名のアルファベット順に一括して記載すること。文献は下記のように記載する。

(日本語著書)  
中田行重 (2003) : キャンパスにおけるコミュニティ・アプローチの展開 村山正治 (編)『コミュニティ・アプローチ特論』日本放送出版協会 pp.89-100.

(外国語著書)  
Rogers, C. R. (1951) : *Client-centered Therapy*. Boston, Houghton Mifflin.

(訳書)  
ラバポート、L. (2009) : 『フォーカシング指向アートセラピー』誠信書房 Rappaport, L., *Focusing-Oriented Art Therapy*. London, Jessica Kingsley Publisher, 2009.

文中に記載する場合：ラバポート (2009)  
原文からの引用を文中に表記する場合：Rappaport (2009, p.12) は “we lean to draw...”  
翻訳からの引用を文中に表記する場合：ラバポート (2009, p.15) は 「私たちは言葉を話せるようになる前に…」
- ① 雑誌の場合：著者名、公刊年（西暦）、論題、誌名、巻、号、記載頁の順で記載する。  
雑誌名の記載に際しては、「心研」[*J. Clin. Psychol.*] といったような略記はしない。なお、雑誌名も書名と同様に「 」にくくるか、欧米言語の場合はイタリックとする。巻、号、ページ数については次の例のように表記する。31(2) : 46-57 (31巻、2号、46-57ページ)。(例) 岡村心平 (2011) : 暗黙的機能の観点から見た心理療法のための一考察：ジェンドリンのフォーカシング・セッションより【サイコロジスト：関西大学臨床心理専門職大学院紀要】1 : 41-50.
  - ② 単行本の場合：著者名、発行年度（西暦）、『書名』、発行所、引用頁の順序とする。外国語の著書は書名をイタリックとし、発行都市名、発行所、引用頁の順とする。  
ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者を筆頭にあげ、以下、発行年度、論題、編者名、『書名』、発行所、頁の順とする。
  - ③ 同一著者で2種以上の文献がある場合は発行年度順とし、さらに同年度に同一著者の2種以上の文献がある場合には2000a、2000bのように区別して記載すること。
12. 英語で論文を投稿する場合の字数は4000-6000ワードの範囲内とし、日本語題目、日本語抄録、日本語キーワードを付け、また所属が日本の研究機関等の場合は日本語でも所属を記すこと。
  13. 印刷上特別の費用を要する事情が生じた場合は、当該執筆者により負担すること。
  14. 執筆者には論文抜き刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
  15. 原稿の採択は関西大学臨床心理専門職大学院紀要編集委員会によって決定を行う。



# psychologist

*Bulletin of the Graduate School of Professional Clinical  
Psychology, Kansai University*

## Contents

|  |   |    |
|--|---|----|
|  | <b>Kaoru KAGAWA</b>                       |    |
| The Effect of Psychological Factors on Premenstrual Symptoms in Female University Students                                     |   | 1  |
|  | <b>Hideo TANAKA, Akira IKEMI</b>          |    |
| Two Streams in the Early Period of Focusing : The Sources of the Experiencing Scales and Focusing Instructions                 |   | 9  |
|  | <b>Atsushi ISHIKURA, Yukishige NAKATA</b> |    |
| Learning from Arendt's Thoughts About Totalitarianism :<br>Towards a Starting Point for Drawing Up a Definition of the T-Group |   | 19 |
|  | <b>Toshihiro KAWASAKI</b>                 |    |
| A Quantitative Analysis of Focusing Attitudes in China :<br>A Trial of the Chinese Version of the Focusing Manner Scale        |   | 29 |
|  | <b>Shigenori TERASHIMA, Nanako SAITO</b>  |    |
| Clinical Supports for Children with Behavioral Problems  |   | 39 |
| <b>Kumiko SAKAMOTO, Rin NISHIMORI, Mami YAMAOKA, Yukiko YONEMOCHI, Akira IKEMI</b>   |   |    |
| Methodological Features and Background of "Blue Sky Focusing"  |   | 47 |
| <b>Mami YAMAOKA, Yukiko YONEMOCHI, Rin NISHIMORI, Kumiko SAKAMOTO, Akira IKEMI</b>   |   |    |
| Blue Sky Focusing : Experiential Articulations and Anxiety Reducing Effects  |   | 57 |
| <b>Chihiro KIYOSAWA, Manami KAWATA, Miho KAMAE, Syunsuke KOUSAKA,<br/>Shiori SATOU, Keisuke TAKAHASHI, Yukishige NAKATA</b>    |   |    |
| Community Clinical Psychological Support of an Evening High School (VI)  |   | 67 |
|  | <b>Tomoko HIRANO</b>                      |    |
| The Emergence of New Understandings about the Client : An Articulation from Experiential Theory                                |   | 75 |